

- [Global Press](#)

小学生と教師、警官のディスコ・パーティー～麻薬、煙草、アルコールはいりません～

[川崎陽子](#)

2012年07月24日

「えっ、子どもが警官とディスコ・パーティー？」と驚くなかれ。ベルギーには、青少年による麻薬、煙草、アルコールの使用・悪用・乱用などを防止するため、警官が授業をし最後はディスコで子どもたちと交流して締めくくるというユニークなプログラムがあるのだ。



🔍 パーティー会場で踊る子どもたち=提供:

<http://www.kiwaniskelmis.be/>

■ユニークなトレーニング

プログラムの名はM. E. G. A. (ドイツ語で「自分自身の正しい回答」の略)といい、一次学校(6年制の小学校に相当)5～6年生は、一年間に10時間の授業でたとえばこんなユニークなトレーニングを受ける。

「来いよ、ビールを一緒に飲もう」、「スパイめ、一緒にシンナー吸わなきゃもう友達じゃないからな」、「体育館の裏に行こうよ、チームが煙草を持ってるよ」などの言葉が添えてあるイラストに、どのように「行かない」と返事をするか、その言葉を書き込む。

また、「最近、人間関係でうまくいっていないことがある」などの質問には、「はい」か「いいえ」で答え、自分のストレス度をチェックする。

クラス全員で一人ひとりの長所を書いて本人に渡し、各自が自分の良い面を伸ばす。

いじめられそうな態度をみせない、警察に通報して助けを求めるなどのトレーニングも行う。警察と消防、子ども相談所、有害物対策センター、学校、そしてM. E. G. A. の授業を担当した警官の連絡先を記入し、「知っておくべき電話番号」のリストも作る。

M. E. G. A. の目的は、未成年が冒頭に挙げたような違法な消費行動に走ることを防ぐだけではない。圧力、ストレス、攻撃的な言動に打ち勝つための抵抗力や、「いやだ、いらぬ」と言えるテクニック、過剰な消費やコンピュータゲームに溺れない方法などを身につけるためでもある。

■アメリカ発祥の青少年犯罪防止プロジェクト

M. E. G. A. のテキストは、アメリカで生まれた。他人を傷つけない話し方、ストレス発散の仕方、誤解や争いに自信をもって対応する、CMや広告を鵜呑みにせず重要な情報を見分ける、リスク・危険を予測する、代替方策を探し実践するなどの内容を網羅している。

ベルギーの米軍基地内では80年代、青少年の犯罪を未然に防ぐプロジェクトが米軍基地内の教育で行われていた。「これはいい！」と目をつけたベルギーの人たちが国情に合わせて改良し、90年代にM. E. G. A. プロジェクトを始めた。



🔍 パーティー会場の様子

麻薬の値段は教えない、写真は見せないなどの指導要項に沿って1週間の研修を終えた警察官がM. E. G. A. トレーナーとして、地元の一次学校（自治体の管轄）に同プログラムの採用を打診する。資金面で一部教育省の支援もあるが、採用するかどうかはあくまでも各学校の判断で強制ではない。それでもこれまでたいいていの学校が、毎年あるいは隔年で参加しているようだ。

ベルギーのドイツ語共同体では、警察、一次学校、精神医学・社会福祉センター（PMS）およびKIWANISクラブ（世界中にネットワークをもつ子ども支援のための奉仕組織）による共同プロジェクトM. E. G. A. が、今年で12回目を迎えた。

10時間の授業は、M. E. G. A. トレーナーの警官が3時間、PMS職員が1時間、残りは講習を受けた各学校の教師が担当する。

■プロジェクトの締めくくりはディスコ・パーティー

M. E. G. A. の修了式といえるディスコ・パーティーは、学年末の金曜日18時半から2時間開催される。会場では、教師とM. E. G. A. トレーナーの警官以外に、KIWANISクラブから25名の男性たちがやはり子どもたちとお揃いのTシャツを着て、進行やあらゆる世話係を担当していた。他の大人は、メディア関係者以外一切立ち入り禁止だ。

全世界に拠点をもつ子どもたちのための奉仕活動団体にKIWANISクラブがある。これもまた、20世紀初頭にアメリカで誕生した。ベルギー内には4000人の会員を擁しパラリンピックの支援などを行っている。ベルギー・ドイツ・オランダ3カ国にまたがる地区には、男性32人の同クラブの組織があり、M. E. G. A. に、必要な年間約8000ユーロ（約80万円）をこの12年間寄付してきた。

創立メンバーに警部がいたことがきっかけで、M. E. G. A. の支援を始めたという同クラブには、現在偶然にも3カ国から1人ずつの警官がいる。その他の職業は、電気技師、教師、医師、看護師、町長、年金生活者などだ。

年会費は約10万円だが、寄付の主な資金源はメンバーたちが調理や給仕をする「イタリア料理の夕べ」やクリスマス市の収益だという。毎年400～500人の子どもたちがディスコで着るお揃いのTシャツは、やはり同クラブが支援する知的しょうがいのため職のない若者たちの組織が製作したものだ。

ディスコ会場には、「麻薬はならない」「アルコールはならない」という紙がいたるところに貼ってあり、子どもたちには無料でジュース、パン、ソーセージが振舞われる。アルコールなどがなくても、ジュースで十分にディスコを楽しむことができることを体験するためだ。

M. E. G. A. トレーナーである警官の一人が語った。「このような予防プログラムがどのような成果をもたらしているか、統計などで調査することは困難です。でも、ティーンエイジャーになった生徒たちは、M. E. G. A. のことも、ジュース・ディスコのことも忘れていません。思い出して、麻薬購入を思い留まったという生徒がいます。一緒に踊ることで、警察官に対する近寄りがたいイメージは払拭され、気軽に相談できる存在になりました。だからこそ、継続していく価値があるのです」。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.